

話を聞いてもらえないと感じる場合

セカンドオピニオンを求めることもできるかもしれません

情報源を複数探すことは、いかなる場合にも良いことです。こうすることで、診断や治療の選択肢をよりよく理解することができ、患者さんは正しい判断をしていると安心できます。

セカンドオピニオンとは、別の医療従事者や専門医の診察を受けることを意味します。あなたの診断や治療について、治験担当医師や治験スタッフが見解を提供します。

次の理由のうち1つ以上のために、別の医師の診察を受けることをお勧めします。

- 診断を確定する
- 他の治療選択肢があるかどうかを調べる
- あなたの病状や治療についてすでに言われたことを裏付ける
- 現在の医師から聞いてもらえないと感じるから



1 セカンドオピニオンの依頼

- 国内の別の医師にセカンドオピニオンを求める権利があるかどうかを確認してください。
- 懸念について、担当の医療従事者、コンサルタント、または診断を受けた病院ユニットに相談してください。
- また、あなたのご家族や介護者は、あなたの同意を得た上で、あなたに代わってセカンドオピニオンを求めることもできます。
- あなたの病気や病状に関するすべての関連情報を、彼らが持っていることを確認してください。

2 セカンドオピニオンを検討するタイミング

- セカンドオピニオンを求める前に、現在の医師に診断について十分に説明を求めてください。
- 診断に納得がいかない場合、または代替治療を探りたい場合は、医師と率直に話し合ってください。
- 現在の担当医が明確な説明を行い、あなたの懸念に対処すれば、セカンドオピニオンが必要ない可能性もあります。
- 別のコンサルタントの診察を受けるには、あなたの医療従事者から新しい紹介を受ける必要があるかもしれません。

3 待ち時間と考慮事項

- セカンドオピニオンを求める人は、すでに医師の診察を受けているため、待ち時間を経験するかもしれません。
- セカンドオピニオンには、別の病院への旅行が含まれる場合があることに留意してください。
- 特に重篤な病状がある場合は、治療の遅れの可能性を考慮してください。

先生の話がよく理解できない場合¹

元の医師にもう一度聞いてもらうとよいかもしれません。理解していない、または情報を繰り返す必要があることに恥ずかしい思いをしないでください。医師は、複雑な医療情報を取り入れることがどれほど難しいか知っています。ショックを受けたり、動揺したりすると、より困難になることがあることを彼らは知っています。

診断後、あなたの状態を読むと、質問や懸念が持ちあがるかもしれません。この件について、専門医と話し合う必要があるかもしれません。

これにより、初回来院以降に生じたあらゆる質問をする機会が得られます。誰かと一緒に来院し、質問があれば書き留めておくとういでしょう。

予約の前に、以下によるセカンドオピニオンの準備が役立つかもしれません¹



- 予約時に何を知りたいかを考えます
- あなたの症状と、すでに受けている治療についてメモを取ります
- 質問を書き留めます
- 誰かに一緒にモラルサポートを求め、医師が提供する情報を取り入れる手助けをしてもらいます
- あなたの病気について、あなたが持っている可能性のあるすべての関連する医療情報を摂取します